

intra-mart Web 受発注システム for SellSide ver3.1.0

リリース・ノート

2002/03/31

1. バージョンアップの内容

✓全体

- ・今回より Oracle だけでなく MS-SQL Server および IBM DB2 に対応しています（詳細は、「システム要件」を参照）。なお、MS-SQL Server および IBM DB2 への対応にともない、ストアード・プロシージャ、ストアード・ファンクションは使用しなくなりました。
- ・商品の単価について、取引先ランク別単価だけでなく顧客別単価にも対応しています。
- ・在庫管理機能の追加により、商品の仮引当や商品の出庫にも対応しています。
- ・Client Side JavaScript および Server Side JavaScript で使用している共通ライブラリの拡張により、処理の共通化を図りました。

✓商品マスタメンテ

- ・URL の形式チェック機能を追加しました。

✓顧客商品別単価マスタメンテ

- ・顧客用単価への対応にともない、追加しました。

✓外部インターフェース-単価マスタ取込

- ・顧客用単価への対応にともない、追加しました。

✓区分マスタメンテ

- ・データの登録、更新、削除を行ったときに、ログイングループ毎のシステムパラメータの値を反映するようにしました。これにより、区分マスタのデータを編集した後も、intra-mart サーバを再起動することなく、引き続き業務を行うことができます。

✓区分値マスタメンテ

- ・データの登録、更新、削除を行ったときに、ログイングループ毎のシステムパラメータの値を反映するようにしました。これにより、区分値マスタのデータを編集した後も、intra-mart サーバを再起動することなく、引き続き業務を行うことができます。

✓システムパラメータマスタメンテ

- ・データの登録、更新、削除を行ったときに、ログイングループ毎のシステムパラメータの値を反映するようにしました。これにより、システムパラメータマスタのデータを編集した後も、intra-mart

サーバを再起動することなく、引き続き業務を行うことができます。

✓動作環境構築画面

- ・ ログイングループ毎のシステムパラメータの値を再構築する画面として追加しました。
- ・ 当画面を使用することにより、区分マスタ、区分値マスタ、システムパラメータマスタのデータを編集した後でも、intra-mart サーバを再起動することなく、引き続き業務を行うことができます。

✓ Cross-Site Scripting 問題への対応（管理者用（マスタメンテナンス等）の画面除く）

- ・ テキストフィールドやテキストエリアなどのフォームにHTML タグやCSJS を入力され、それをHTML として表示するとき、表示が崩れたりCSJS が動いてセキュリティホールになるということがなくなりました。

システム要件

Web 受発注システム for SellSide Ver3.1.0 の動作環境は intra-mart ベースモジュール Ver3.1.1 (intra-mart ベースモジュール Ver3.1 対応パッチ 1) の動作環境に準拠します。また、intra-mart ベースモジュール ver3.1 は Java ベースで開発されています。従って、基本的には Sun JRE1.3.0 以上が動作するプラットフォームであればどこでも動作可能です (Web サーバ接続モジュール (Web サーバコネクタ) を除く。Web サーバ接続モジュールは下記の弊社動作検証済み環境でのみ動作します)。

以下、弊社動作検証済み (推奨) intra-mart 製品と他社ミドルウェア製品との組み合わせを記します。

intra-mart 製品	Java ランタイム	サーバ OS(*1)	Web サーバおよびバージョン	Web サーバと intra-mart の接続形態(*2)	データベース(*4)	
intra-mart ベースモジュール ver3.1 (Ver3.1.1(intra-mart BaseModule Ver3.1 対応パッチ 1)) + intra-mart Web 受発注システム for SellSide ver3.1 (Ver 3.1.0)	SUN JDK1.3.1_02 (JRE1.3.1_02)	Windows2000	iPlanet WebServer 4.1 (*2)	NSAPI	Oracle7.3.4 以上 MS-SQL サーバ 2000 IBM DB2 ver7.2	
			Microsoft IIS 5.0	ISAPI	Oracle7.3.4 以上 MS-SQL サーバ 2000 IBM DB2 ver7.2	
			Apache1.3.19 (DSO サポート版)	組み込み モジュール (mod)	Oracle7.3.4 以上 MS-SQL サーバ 2000 IBM DB2 ver7.2	
		Solaris8		Iplanet WebServer 4.11 (*3)	NSAPI	Oracle7.3.4 以上 IBM DB2 ver7.2
				Apache1.3.19 (DSO サポート版)	組み込み モジュール (mod)	Oracle7.3.4 以上 IBM DB2 ver7.2
				Apache1.3.19 (DSO サポート版)	組み込み モジュール (mod)	Oracle7.3.4 以上 IBM DB2 ver7.2
Redhat Linux6.2		Apache1.3.19 (DSO サポート版)	組み込み モジュール (mod)	Oracle7.3.4 以上 IBM DB2 ver7.2		

(*1) 弊社で動作確認をしているハードウェアは下表の通りです。

OS	ハードウェア
Windows2000	PC/AT 互換機 (DOS/V)
Solaris 8	SUN ULTRA ENTERPRISE 450
Redhat Linux6.2	PC/AT 互換機 (DOS/V)

(*2) WebServerConnector は Servlet 版も用意されています。詳細はインストールガイドを参照して下さい。

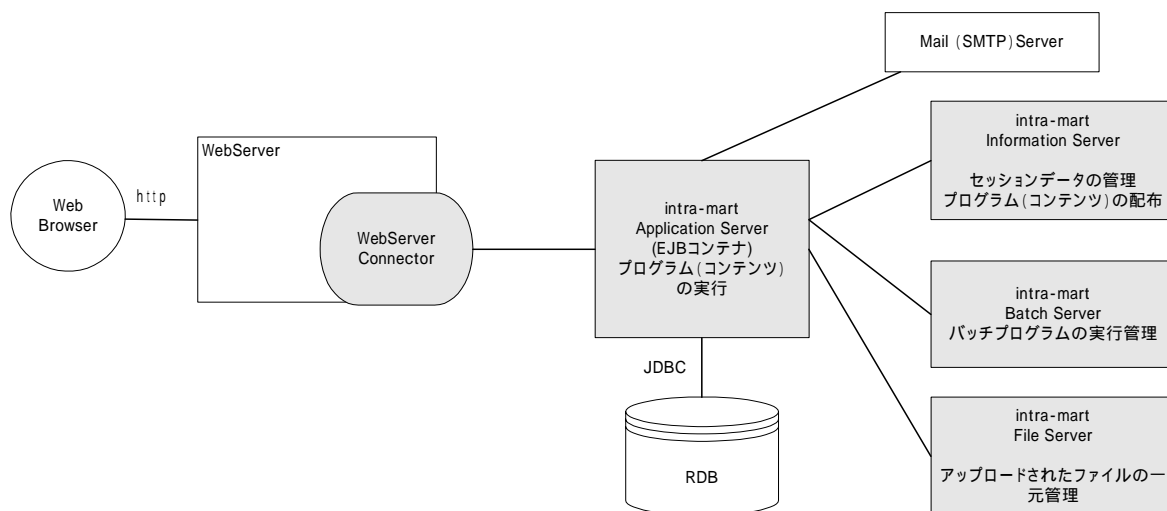
(*3) '6 . intra-mart ベースモジュールの制限事項」を参照して下さい。

(*4) データベースへの接続方法に関しては、下表をご覧ください。

データベース製品	接続方法	接続に必要なソフトウェア
Oracle	JDBC 接続	Oracle JDBC Driver8.1.7 または 9.0.1
MS-SQL Server 2000	JDBC-ODBC ブリッジ接続	MS-SQLServer2000 ODBC Driver 2000.80.194.00
IBM DB2 UDB	JDBC 接続	DB2 JDBC Driver (IBM DB2 ver7.2 に付属)

(注意)・WebサーバおよびDB、その他のモジュール稼動に必要な稼動環境情報(リソース、メモリー量等)につきましては、各製品(各アプリケーション)のWebサイトなどご確認ください。

- ・intra-mart ベースモジュール ver3.1 を稼動させるには、OS、Webサーバ、DBとは別に256Mのメモリーを必要とします。(推奨512M)
* intra-mart Application Server : 64M (Application Server あたり)、Information Server : 64M、File Server : 64M、Batch Server : 64M
- ・稼働に必要なJavaランタイムは左記のURLより入手する必要があります。(製品には付属しません。)
「<http://java.sun.com/j2se/1.3/ja/jre/>」(Javaランタイム)
「<http://java.sun.com/j2ee/download.html>」(J2EE)
- ・DB(Oracle)接続で使用するOracle JDBC Driver for JDK1.2 Ver8.1.7 JDBCドライバーはOracle7.3.4以上での接続を対象としているドライバーです。
- ・DB(Oracle)接続で使用するOracle JDBC Driver for JDK1.2 Ver8.1.7 JDBCドライバーはOracle8.1.7以下のVersionには付属されておりませんので、別途入手する必要があります。以下のサイトからダウンロードできます。(2002/1/28現在)
<http://www.oracle.co.jp/download/jdbcodbc/index.html>
MS-SQLサーバへは、ODBC経由で接続します。(弊社動作検証済ODBCドライバーはSQL Server3.70.08.20です。)
IBM DB2へは、IBM DB2 Ver7.2に付属するJDBCドライバーで接続します。
- ・稼動する環境図を下記に掲載します(*intra-mart Application Server、Information Server、File Server、Batch Serverは1台のサーバ内で稼動させてもよい)。
(*この場合最低限必要とするメモリー量は「OS : x x M」+「Webサーバ : x x M」+「DB : x x M」+「256M」となります。)



◆ サーバ要件

(1) < Windows 2000 版 >

- ハードウェア -

・ Intel Pentium 以上を備えた PC (Pentium 700Mhz 以上推奨)

・ CD-ROM

・ 256MB 以上の RAM(OS,Web サーバおよび RDB の稼動に必要な RAM は除く。)

注意 作成されるアプリケーションで多くのメモリーを必要とする処理を想定されている場合や、想定ユーザー数等が多い場合は、より多くのメモリーを必要とする場合があります。この部分等を御考慮いただき必要となるメモリー容量を御算出下さい。

・ ハードディスク領域：150MB (intra-mart ベースモジュールのみ)

20MB (intra-mart Web 受発注システム for SellSide ver3.1.0 のみ)

注意実行するシステムの規模や登録データ量により運用時に必要なハードディスク要領は変化します。

- ソフトウェア -

「2. システム要件」に準ずる。

(2) < Solaris 版 >

- ハードウェア -

・ Solaris8 の稼動可能な Sparc アーキテクチャマシン機種 (Ultra Sparc 450Mhz 以上推奨)

・ CD-ROM

・ 256MB 以上の RAM(OS,Web サーバおよび RDB の稼動に必要な RAM は除く。)

注意 作成されるアプリケーションで多くのメモリーを必要とする処理を想定されている場合や、想定ユーザー数等が多い場合は、より多くのメモリーを必要とする場合があります。この部分等を御考慮いただき必要となるメモリー容量を御算出下さい。

・ ハードディスク領域：150MB (intra-mart ベースモジュール込み)

20MB (intra-mart Web 受発注システム for SellSide ver3.1.0 のみ)

注意実行するシステムの規模や登録データ量により運用時に必要なハードディスク要領は変化します。

- ソフトウェア -

「2. システム要件」に準ずる。

(3) < Linux 版 >

- ハードウェア -

・ Redhat Linux6.2 の稼動可能な Intel Pentium 以上を備えた PC (Pentium 700Mhz 以上推奨)

・ CD-ROM

・ 256MB 以上の RAM(OS,Web サーバおよび RDB の稼動に必要な RAM は除く。)

注意 作成されるアプリケーションで多くのメモリーを必要とする処理を想定されている場合や、想定ユーザー数等が多い場合は、より多くのメモリーを必要とする場合があります。この部分等を御考慮いただき必要となるメモリー容量を御算出下さい。

・ ハードディスク領域：150MB (intra-mart ベースモジュール込み)

20MB (intra-mart Web 受発注システム for SellSide ver3.1.0 のみ)

注意実行するシステムの規模や登録データ量により運用時に必要なハードディスク要領は変化します。

- ソフトウェア -

「2. システム要件」に準ずる。

◆ ブラウザ要件

・ Netscape Communicator 4.7 以上 (NC6 を除く) Microsoft Internet Explorer 5.5 以上の Windows2000/Me/XP 版ブラウザ

弊社動作検証済ブラウザは以下の通りです (動作検証済バージョンのブラウザを御推奨いたします。それ以外のバージョンでは動作の再検証が必要な場合があります)。

- ・ WindowsMe + Microsoft Internet Explorer 5.5
- ・ WindowsMe + Netscape Communicator 4.78
- ・ Windows2000 + Microsoft Internet Explorer 6.0
- ・ Windows2000 + Netscape Communicator 4.78
- ・ WindowsXP (Home Edition) + Microsoft Internet Explorer 6.0
- ・ WindowsXP (Home Edition) + Netscape Communicator 4.78

2. 制限事項

Web 受発注システム for SellSide ver 3.1.0 の制限事項 (詳しくは、マニュアルを参照して下さい。)

(1) Web 受発注システム for SellSide を使用するグルーピングマスタ(自社)は、下記の設定でなければならない。

グルーピングマスタの設定 グルーピングタイプ: O(自社) 計上部門区分(予備項目 01): "A" (計上)

(2) Web 受発注システム for SellSide を使用するグルーピングマスタ(顧客)は、下記の設定でなければならない。

グルーピングマスタの設定 グルーピングタイプ: C(顧客) 計上部門区分(予備項目 01): "A" (計上)

(3) Web 受発注システム for SellSide で使用する受注センタユーザは、上記(1)の計上可能な部署に主所属で登録されていないなければならない。

(4) Web 受発注システム for SellSide を使用する顧客のログイン ID は、上記(2)のグルーピングコード (顧客) と同一のコードでなければならない。

(5) クライアントの Web ブラウザに Microsoft Internet Explorer をご使用の場合、次の制限事項があります。

(a) Internet Explorer 5.5 SP1 をご使用の場合

- ・ ファイルのダウンロードを行う場合、左ボタンクリックでは正しく動作しません。
- ・ ファイルのダウンロードを行う場合、ダウンロードを行うファイル上でマウスの右ボタンをクリックしてメニューを表示させ “対象をファイルに保存” を選択してください。

- (6) タグの表記に用いられる記号(>, <, ", &等)及び「'」(シングルクォート)をデータとして登録すると、正常に管理者用画面(マスタメンテナンス画面など)で表示できないなど、動作がおかしくなる場合があります。
- (7) ファイル、フォルダの保存に関しては OS のファイルシステムに依存します。
- (8) ファイルダウンロード機能において IE5.01、IE5.5 で Excel ファイル(*.csv 等)を直接開いた場合に、「ページが表示できません」を表示する場合があります。この場合はファイル名のリンクを「右クリック 保存」にてダウンロードすることができます。
- (9) 文字列検索を行なう画面で検索文字列にデータベース上でメタ文字として扱われる文字を指定した場合、正しい結果が得られない場合があります。
- (10) クライアントの Web ブラウザに Netscape Communicator 4.78 をご使用の場合、一部の OS において、ブラウザが応答しなくなる場合があります。
- 以下の環境にて確認しております。
- Win2000 + Netscape Communicator 4.78**
- WinXP Home + Netscape Communicator 4.78**
- その場合は、ブラウザ上の画面の再表示を試みてください。

intra-mart ベースモジュールの制限事項

- (1) 当ソフトウェアが動作する環境において、他のソフトウェア等をインストールした場合、dll 等のバージョンにより障害が発生する場合があります。
- (2) クライアントの Web ブラウザに Microsoft Internet Explorer をご使用の場合、次の制限事項があります。
- (a) Internet Explorer 5.x をご使用の場合
- ・画面共通モジュールのうち、印刷モジュールが正しく動作しません。
 - ・不安定な動作が発生する場合、オプション指定で「HTTP1.1」の使用、もしくは未使用にしてお試しください。
- (b) Internet Explorer 5.5(SP1)、5.5(SP2) または 6.0 をご使用の場合
- ・ファイルのダウンロード機能を使用した時、ダウンロードに失敗したり、ダウンロード成功後 CSJS スクリプトが動作しなくなる場合があります。CSJS スクリプトが動作しなくなった場合には、該当画面を再読込後、作業を再開してみてください。
- (3) Web サーバとして iPlanet WebServer をご利用になられていて Servlet 版 WebServer Connector をご使用の場合、次の制限事項があります。
- ・ファイルダウンロード機能において、日本語(多バイト文字)ファイル名が使用できません。
- (4) intra-mart の各サーバを別々のコンピュータにインストールする場合、次の制限事項があります。
- ・intra-mart の各サーバをインストールするコンピュータは全て、時計(コンピュータのシステム時計)を合わせて下さい。コンピュータごとにシステム時間が違っていると、アプリケーションが正しく動作しない場合があります。
- (5) Sun JRE1.3.0 を使用する場合、Module.database オブジェクトを使って MS-SQL Server の text 型カラムの null 値にアクセスすることはできません。(Sun JRE1.3 の不具合。)

(6) Windows (NT/2000) を File サーバとして使用している場合、ユーザ ID やログイングループ ID を大文字小文字の区別をして登録すると、以下のような不具合が発生する場合があります。

- ・ ベースモジュール、StartPack、Web メールなどの intra-mart パッケージでは、メールの添付ファイルなどをファイルへ保存する際、ファイル名、フォルダ名に ユーザ ID やログイングループ ID を使っています。よって、Windows (NT/2000) を File サーバとして使用している場合、ユーザ ID やログイングループ ID を大文字小文字の区別をして登録すると、違うユーザの情報が同じファイルに出力されてしまいます。(Windows (NT/2000) のファイルシステムでは、ファイル、フォルダ名の大文字小文字を区別しないため)

例) ユーザ ID を master と MASTER などとして区別している場合、master のメール添付ファイルの内容と、MASTER のメール添付ファイルの内容は、同じファイルに書き込まれます。

(7) データベースに MS-SQL サーバを使用する場合、MS-SQL サーバが大文字小文字を区別する設定でインストールされていない場合、以下の不具合が発生します。

- ・ メニューの[システム設定]-[データベース]画面でシステム DB 構築を行った際、一部の初期データが一意制約違反となり登録できません。

(8) Unicode で使える範囲の文字であっても、Java-VM の文字コード変換機能の制約により各文字コード間で正常にコード変換されない文字があります(「～」文字など)。

(9) データベースを利用する際の注意点

各データベースベンダーの JDBC の実装及び Sun JRE の JDBC-ODBC ブリッジの実装により、一部の文字が化けるという問題があります。

- (a) 弊社では、下記ドライバを使用したときに以下の全角文字が化ける(?文字に置き換えられる)ことを確認しています。(環境により一部異なる場合があります。また、データベース入出力に関する機種異存文字対応機能をご利用になられている場合は、この限りではありません。)

Oracle8.1.7 JDBC ドライバを使用したとき文字化けする文字一覧

・ テスト環境

Oracle 8.1.5

Oracle JDBC Driver 8.1.7

ミリ キロ セン ネル グラ トン ヘル ヘル ツ ヲ ドル セン パー 記 号

mm cm km mg kg cc m² “ „

KK

Ⓐ Ⓑ Ⓒ Ⓓ Ⓔ

(株) (有) 代 聯 証 聯 平 城

MS-SQL サーバ ODBC ドライバを使用したとき文字化けする文字一覧

・テスト環境

MS-SQL サーバ 2000

MS-SQL サーバ 2000 ODBC Driver 2000.80.194.00

Sun JRE1.3.1 および JDK1.3.1

~ -

ミ リ キ センメーグ ラト アーヘクリツワツカロド センバ-ミリベ-
ロチ トルム ンル タルトルト リー ルト セトポルジ

mmcmkmmgkgccm²

”

KK

ⓀⓁⓂⓃⓄⓅⓆⓇⓈⓉ

(株)(有)(代)明治大正昭和平成

(b) 機種依存文字対応機能(文字化けを防ぐ機能)を利用する場合の注意点。

以下の制限があります。

- ・データベースにデータを保存する場合、機種依存文字を含む文字列データはエンコードされるため、通常よりも保存するデータ量が多くなります。
- ・データベースにはエンコードされたデータが保存されるため、他のシステムでは正しく取得できないことがあります。
- ・データベースとの入出力データ量に比例してサーバに負荷がかかります(この機能を有効にした場合、この機能を持つAPIのレスポンス速度が低下します)。

本機能の対象となる機種依存文字は以下の通りです。

ミ リ キ センメーグ ラト アーヘクリツワツカロド センバ-ミリベ-
ロチ トルム ンル タルトルト リー ルト セトポルジ
mmcmkmmgkgccm² ” KK
ⓀⓁⓂⓃⓄⓅⓆⓇⓈⓉ(株)(有)(代)明治大正昭和平成

また、関連するAPIは下表の通りです(APIの仕様に関しては、APIリストを参照して下さい)。

ページベース開発モデル

- | | |
|-----------------------------|---------------------------------|
| ・ Module.database.select() | ・ Module.database.insertData() |
| ・ Module.database.fetch() | ・ Module.database.updateData() |
| ・ Module.database.execute() | ・ Module.database.deleteData() |
| ・ Module.database.insert() | ・ DbStoredProcArg.setString() |
| ・ Module.database.update() | ・ DataForStoredProc.getString() |
| ・ Module.database.remove() | |

J2EE ベース開発モデル

- ・ imart.database.DbsConnection#fetch()
- ・ imart.database.DbsConnection#insert()
- ・ imart.database.DbsConnection#update()
- ・ imart.database.DbsConnection#remove()
- ・ imart.database.DbsConnection#execute()
- ・ imart.database.DbsConnection#select()

- (10) ブラウザでサブミットボタンのある画面で、作業中にリターンキーのみを入力してしまった場合、サブミットボタンをクリックしなくてもフォームが送信されてしまう場合があります(ブラウザソフトの動作仕様に依存します)。フォームの送信内容をチェックしていないプログラムでは実行時エラーとなってしまう場合がありますので、ご注意ください。
- (11) 市販の Web サーバで組み込みモジュール(NSAPI,ISAPI,mod)版 WebServer Connector をご利用になられている場合、WebServerConnector ログが出力されません(WebServer Connector のログ出力機能は、Servlet 版にのみ含まれています)。
- (12) InformationServer はデータ保存要求を受け付けてから、ファイル出力遅延時間が経過した後にデータファイルを作成します。データ保存行為を実行してから遅延時間が経過する前に InformationServer を停止した場合、データがファイルに書き込まれずに次の起動時に反映されません。InformationServer は、以下のいずれかの方法で停止するようにして下さい。

intra-mart Administrator の『停止』ボタンで停止

ApplicationServer、BatchServer および Jasmine ii Portal 等の InformationServer を利用するすべてのプロセスを停止後に十分な時間が経過してから停止

- (13) 以下の条件を満たした状態で intra-mart サーバを運用した場合、OSからのログアウトすることによりサーバプロセスが停止してしまいます。

条件 1) Windows 系サーバ OS でサーバをサービス化

JRE1.3.0 (または JDK1.3.0)

回避方法) 1 : JRE (または JDK) を Version1.3.1 にアップデートしてください。

2 : intra-mart Administrator を使い、各サーバの JAVA オプション設定に『-Xrs』を追加してください (設定ファイル imart.conf を開いて、各サーバ毎の JAVA オプション設定(<java>タグの<option>タグ内)に『-Xrs』を追加していただいても結構です)。

条件 2) Windows 系サーバ OS でサーバをサービス化

JRE1.3.1 (または JDK1.3.1)

回避方法) 1 : intra-mart Administrator を使い、各サーバの JAVA オプション設定に『-Xrs』を追加してください (設定ファイル imart.conf を開いて、各サーバ毎の JAVA オプション設定(<java>タグの<option>タグ内)に『-Xrs』を追加していただいても結構です)。

- (14) JavaScript コンパイラの最適化オプション (im-Administrator で ApplicationServer 設定変更リスト中の『JS コンパイル最適化』項目) を有効(true)にした場合、環境により JavaScript のコンパイルまたは実行時エラーが発生する場合があります。その場合は、最適化モードを無効(false)にしてください。また、それでもエラーの発生が続く場合は、work ディレクトリを削除して ApplicationServer を再起動してくだ

さい。

- (15) 弊社より提供される intra-mart ベースモジュール及び Web 受発注システム for SellSide のデータベース構造はバージョンアップ時に前置きなく変更される場合があります。そのため intra-mart ベースモジュール及び Web 受発注システム for SellSide で提供されているデータベース構造をお客様が変更したり、またはそのデータベース構造に依存したアプリケーションを作成した場合、バージョンアップ時の動作保証の対象外となります。ご注意ください。
- また、公開されているソースコードをカスタマイズした場合においてもバージョンアップ時の動作保証の対象外となります。
- (16) タグライブラリ Cal_view を初めて実行したときに、例外 java.lang.NullPointerException がスローされることがあります。その場合、現象の発生した ApplicationServer を再起動することで正常に動作するようになります。

3. マニュアルについて

「Web受発注システム for SellSide」がページメニューに登録されています。

[Web受発注システム for SellSide]-[マニュアル]メニューから参照できます。必要に応じてご活用ください。

また、CD-ROMにはより詳細な管理者向けのマニュアルも用意されています。

その他最新の技術情報やパッチ提供は [intra-mart Developer Support Site](http://www.intra-mart.com/support/intramart.cgi) を御参照ください。

intra-mart Developer Support Site : <http://www.intra-mart.com/support/intramart.cgi>

以上